

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 浮羽工業 高等学校

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割を目指す学校像)</p>	<p>「技を磨き、地域社会に貢献できる工業人材を育成する学校」 生徒の関心に応じて専門分野を選択できる得意技コース制や、ものづくりを通じた教育の充実により、確かな工業技術を身に付け、地域の産業や社会に貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に関する方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー ○「挑戦は未来を創る」を合言葉に、何事に対しても積極的に挑戦する態度を育む。 ○あいさつ5S活動を通して、気持ちの良い挨拶、社会人としての礼儀作法を身に付ける。 ○地域を愛し、積極的に地域貢献しようとする人材の育成</p>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に関する方針)</p>	<p>カリキュラム・ポリシー ○生徒が希望する資格や技術を習得し、進路を実現するための「得意技コース制」の充実 ○地元企業への工場見学・インターンシップの実施など、地域と連携したキャリア教育の推進 ○地域貢献の精神を育成するための「テクノボランティア」の実施 ○習熟度別・少人数指導、ICT機器の活用など、きめ細かな授業の展開</p>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに関する方針)</p>	<p>アドミッション・ポリシー ○ものづくりに興味がある人 ○資格や技術を身に付けて自らの進路を見つけたいと思っている人 ○何事も粘り強く取り組むことができる人 ○人と協力して積極的に取り組む姿勢を持っている人 ○学校行事や部活動にも積極的に取り組むことができる人</p>

学校運営計画(4月)

<p>学校運営方針</p>	<p>1 教育活動全体をとおして「質実剛健 勤労力作 創意工夫」という校訓の心を育む。 2 ものづくり教育をとおして、工業高校として魅力ある学校づくりに邁進する。</p>		<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題</p> <p>本校は、創立119年目の歴史と伝統を誇る県下でも屈指の工業高校である。就職・公務員、四年生大学・専門学校等を含め安定した進路実績がある。昨年度は学校幹部による就職率100%を達成、公務員は過去10年間で最も延べ合格者数が多く、進路実績が向上した。また、令和7年度入学者選抜において出前授業の充実、SNSを活用した広報活動等により、機械・電気系の志願倍率が1.0倍を超えるなど成果を上げたが建設系は0.5倍に留まり、最終志願倍率は0.75倍で定員割れとなった。「時を守り、場を清め、礼を尊ぶ」指導を通して、資格取得の内容の充実や部活動・学校行事の活性化率により本校の魅力を高めて受検志願者の増加を図り、入学定員を満たすことが課題である。創立120周年に向けて職員一丸となって活気あふれる学校づくりに邁進する。</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>A</p>
	<p>基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成</p>	<p>・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善と教科指導力の向上を図る。 ・ICT機器の活用と個に応じた指導による「わかる授業」と「生徒一人一人の実態に合わせた支援」の促進を図る。</p>	
	<p>キャリア教育の充実</p>	<p>・計画的なガイダンスや地域や企業との連携を効果的に実施し、キャリア意識の醸成を図る。 ・多様な進路希望に応じた進路指導体制の充実を図る。</p>	
	<p>工業教育の充実</p>	<p>・学科・得意技コースの特徴を生かした教育活動の推進と専門的な知識と技術に関する指導力の向上を図る。 ・テクノボランティア等による地域交流をとおして、生徒の自己肯定感の高揚を図る。 ・資格取得に向けた組織的指導体制を充実させる。</p>	
	<p>広報活動の充実</p>	<p>・出前授業、体験入学等の取組とホームページ、SNSを充実させる。 ・特色ある教育活動を発信し、生徒の自尊感情を高めるとともに、地域に信頼される学校を目指す。</p>	

		自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	主体的・対話的で深い学びが達成できる授業の拡充	ICT機器の活用と個に応じた指導の啓発を行い、「わかる授業」を推進する。	<9月授業アンケート> 「授業中に自分で考える時間がある」88% 「授業の理解度が普通以上である」90%	A	A	授業について、ICTを活用する機会を増やし、視覚的・聴覚的な分かりやすさの改善が進んだことに加え、生徒同士が話し合い、自ら考えることに重点を置く授業への移行を進めることができた。今後も対話的で主体的な深い学びを実現できるように、導入ツールの検討を行っている。また、本年度から刷新した評価制度により、生徒をより多角的に評価することができた。今後、3観点をよりバランスよく育成できるように制度設計を検討していく。	A	ICTを活用し、生徒が視覚的・聴覚的に分かりやすい授業展開を図るとともに、改善ができていた。また、DXの推進にも力を入れていただいているようであるので、先進的かつ魅力ある授業づくりをしていただきたい。	
		授業において、生徒自ら課題を見つけ解決しようとする活動を推進する。		A					
		年間指導計画と評価・評定の規定を活用し、授業計画・運営の改善を図り、生徒の授業満足度を向上させる。		A					
	ICT機器を活用した効果的な授業の推進	Chromebookの活用例を共有することで使用率を上げ、学習効果を高める。		B	A				学習環境について設備の拡充が今年も行われた。今後も最新の設備を使った授業が行えるように整備をしていく。また、授業規律について一部授業で手が進まない状況があったので、調査及び改善を行った。今後も、より分かりやすい授業運営がされるように管理をしていく。
		ICT支援員と連携することでICT機器の管理を徹底し、トラブルへの迅速な対応を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「教育環境が充実している」88%	A					
		ネットワークセキュリティを常に意識するように定期的に啓発を行い、情報漏洩防止の徹底を図る。		A					
地域社会に貢献できる工業人材の育成	座学と実習の連携を推進し、体系的な学習を構築すると共に「ものづくり」の意識を高める。	<2学期末授業アンケート> 「ペアやグループで話し合ったり、発表したりする機会がある」75% 「授業の理解度は普通以上である」90%	A	A	安全を第一にものづくりの取組を各科実施できた。また、各科で課題を解消するための研究とものづくりを行うことができた。さらに、学科によっては地域と連携したテクノボランティアの取組ができた。さらに、授業以外の補講等について、新しい取組ができ、個別最適な学びがより多くなってきた。今後も、本年度の反省を生かし、「分かる」生徒を増やしていく。				
	実習及び課題研究を通して「テクノボランティア」の意識を高める。		A						
	生徒の実態に応じて、一人一人に最適な学習支援を行う。		A						
生徒指導部	全職員でいじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。	学校いじめ防止基本方針を共通理解し、いじめの起こりにくい環境づくりを行う。	<いじめアンケート> 「あなたは前回のアンケート以降、いじめを受けたことがある」 ①7月実施分:0.31%(1人) ②12月実施分:0.0%	A		A	学校生活アンケートやいじめアンケートを実施し、生徒の悩みや困りごとを洗い上げ、適切な支援や指導に繋げることができた。生徒及び保護者に対し、見守りの強化や相談窓口の周知、アンケートの意義等を事前に説明し、理解させることができたのが良かった。また、いじめ事案に関して協議する教育相談委員会について、随時で実施する場合に実施までに時間がかかってしまったことがあるので、データを活用してスムーズに内容を共有するなどシステムを構築することで次年度の課題である。	A	生徒が学校生活について、安心安全に過ごすことができる環境づくりに取り組んでいる様子を感じ取ることができた。また、4月から自転車での交通違反に関する罰則も始まるので、ヘルメットの着用を始めとする指導の徹底をおねがいしたい。
		毎月学校生活アンケート等を実施し、生徒情報を共有し、全職員で適切な支援を行う。		A					
		生徒指導部通信を毎月1回発行し、生徒だけではなく保護者・地域に対して情報の提供や注意喚起を促すことで、学校・家庭・地域間の連携を強める。		A					
	基本的な生活習慣の確立と規範意識を育む。	専門的知識を有する外部人材を活用した講演会を実施し、生徒が学習できる機会を設定する。	<あなたは前回のアンケート以降、他の人がいじめられているのを見たことがある> ①7月実施分:0.62%(2人) ②12月実施分:0.0%	A	A	今年度は昨年度に比べ外部の専門的知識を有する人材を活用した講演会の数を1回増やし、生徒の学習の機会を増やすことができた。次年度も年間行事計画のバランスを考慮しながら、様々な分野の外部人材を活用していきたい。また、今年度の保護者参加型の講演会は昨年度以上に参加数が増えた(昨年度5名→今年度10名)。保護者への周知を昨年度よりも徹底したこと、PTA健全育成委員会の方々と連携して保護者の参加を呼びかけた結果だと考える。今年度は保護者参加型の講演会の回数を増やすなどして、生徒だけでなく保護者も学ぶ機会を増やし、家庭と学校が連携して生徒支援が行える土壌作りをしていく。			
		定期的な校内の巡回指導や教育相談委員会を通して生徒の実態を把握し、学年や学科と連携して規範意識を高める。		A					
		朝の挨拶指導や身だしなみ指導を実施し、端正な服装や自律ある態度を育成すると同時に、生徒と教職員間の信頼関係構築に繋げる。	<講演会実施後保護者アンケート> 「講演会の内容に満足している」100% 「生徒の携帯の使い方やインターネットの使い方について」 適切だと思う:20% 適切ではないと思う:80% 分からない(把握できていない):20%	A					
交通安全教育の充実と改善を図る。	定期的に交通に関する集会を実施し、交通安全に対する意識の向上を高める。		A	A	今年度は原付バイク通学者や自転車通学者、公共交通機関利用生徒など交通手段別に交通事故未然防止のための集会や利用マナー向上のための集会を交通担当職員を中心に実施することができた。また、終業式などの全校生徒が集まる際にも交通安全のための注意喚起を適宜行うことができたため、登下校時における交通事故報告数は昨年度よりも減少した(昨年度6件→今年度4件)。次年度は4月から自転車の交通違反に関する罰則が強化されることもあり、自転車利用生徒に対する交通安全教育をより充実させたい。				
	通学で使用している自転車やバイクの定期的な点検を行い、安心安全に登下校ができるようにする。		B						
	自動車学校や警察などの外部機関と連携し、原付バイク実技講習会の実施や交通安全に関する情報と資料を生徒・保護者・地域に提供する。		A						
進路指導部	進路第一志望の実現	計画的な進路希望調査や講演会等を実施し、進路に対する意識を高める。	<学校生活(満足度)アンケート> 「あなたは決めた進路に満足していますか」 満足 生徒:96%、保護者:96%	A		A	第一希望で就職が内定した生徒の割合が92%。進学は100%であった。この成果は3学年の先生を中心に学校全体で進路指導に取り組んだ結果だと考える。次年度も、生徒の希望進路実現のために生徒の興味・関心や適性を把握し、適切な進路指導を行っている。	A	生徒が希望した進路先に、ほぼ全員が第一希望で内定或いは、進学していることについては、素晴らしいことである。次年度も1年次から建設的に進路指導に取り組んでいただき、進路先の不一致がないよう努めていただきたい。
		工場見学やインターンシップを通して、実際の現場を経験させる。		A					
		学級、学年に適切な進路情報を提供し、連携を図りながら体系的な指導を行う。		A					
	基礎学力の定着と資格取得の推進	自己実現するための一つの手段として、資格取得に対する意欲の向上を図る。	<学校生活(満足度)アンケート> 「資格試験合格に向け、効果的な指導を実施していると思いますか」 思う 1年:97%、2年:94%、3年:96%	B	B	積極的に資格取得に取り組ませることで、大学・専門学校での合格率向上や、就職でのアピールポイントとなり、生徒一人一人の希望する進路実現に繋がった。一方、基礎学力にばらつきのある生徒への個に応じた指導がより一層必要である。			
		明確な進路目標を持たせ自分の学力を客観的にとらえることで学習意欲を喚起する。		B					
		生徒の進路目標に応じ、適切な情報を共有することで、指導の充実と強化を図る。		A					
キャリアプランニング能力の育成	学校生活全般を振り返ることで、自分の役割の価値を認識し、生き方を意識させる。	<学校生活(満足度)アンケート> 「必要な進路情報を提供していると思いますか」 思う 1年:97%、2年:99%、3年:97%	B	A	生徒の職業観・勤労観の形成や専門的職業人として必要な資質・能力の育成に一定の成果を上げることができた。また、産業界が重視する「コミュニケーション能力」などの社会人基礎力をどのように育成していくかが課題である。				
	コース選択、インターンシップなど系統立てた取組を通じ、職業観・勤労観を養う。		A						
	実習、課題研究を通じ、様々な課題を発見したり、分析したりすることで、解決する能力を育成する。		A						
総務企画部	式典等の学校各種行事を円滑に遂行する。	式典や各種行事等において、各部署と連携するとともに随時改善を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「心に残り充実した学校行事を実施しているか」 思うの結果 1年:90%、2年:94%、3年:96% 3年保護者:94%	A		A	担当する各種学校行事は、各部署の協力により滞りなく実施できた。来年度も連携や情報交換を入念に行い円滑に行事を遂行する。また、創立120周年記念行事に向けての会議を2回行うことができた。来年度の本書に向けより具体的な計画を行い成功につなげる。	B	創立120周年に向けて、計画的に進めていただいている。次年度は実施をするので成功に向け取り組んでいただきたい。また、広報活動では生徒募集も少し増え、効果的に活動できていると推察する。次年度も引き続き、お願いしたい。
		大規模改設計画に対応し、各種学校行事を円滑に進める。		B					
		次年度の120周年記念式典に向けて、準備を同窓会、PTA、各部署と連携し準備を進める。		A					
	保護者、地域、同窓会との協力関係を築き、学校の活性化に繋げる。	PTA活動を通して、保護者と学校の連携を深めるとともに、PTA行事への保護者への呼びかけを積極的に行う。	<PTA総会授業参観保護者アンケート> 「総会」良かった:100%、「授業参観」大変良かった:53%、良かった:47% <PTA懇話会保護者アンケート> 「全体会」大変良かった:30% 良かった:53%、「分科会」大変良かった:53%、良かった:47%	B	B	PTA各種行事は今年度滞りなく行うことができた。来年度は組織の一部改変を行いつつ、行事の充実を図っていく。また、広報課と連携しながら、得意技コースの周知、浮羽工業の良さおよび魅力を活かし、志願者増につなげる。			
		教務、広報と連携し、中学校訪問や体験入学を通して、得意技コースの周知および本校の魅力を生徒に伝え、志願者増に繋げる。		B					
		公開する学校行事を通して地域との良好な関係を築く。		B					

工業教育部	魅力ある学科、得意技コース制の活性化を図る。	学科の教育内容の充実を図るとともに、得意技コース制の特色を活かし幅広い知識を身に付ける。	得意技コース選択について <コース選択で参考となったもの> 先生との面談:28% 希望進路先:47.5% <満足度> 大変満足:35.6%、満足:57.6%	A	A	A	得意技コース制について、3回の希望調査を実施した。コースの偏りが見受けられた時期があったが、担任を中心にクラス担当職員による面談などの細やかな指導で円滑にコース編成が出来たことは大変良かった。	A	本校には様々な学科があり、その特色を生かした教育活動が行われている。しかし、その内容が外部に伝わっていないように感じられることが残念である。そのために、積極的に工業高校を各学科でアピールしていただきたい。
		得意技コース制の運営を円滑にし、魅力を発信する取組を行う。		A					
		コース編成が円滑に実施できる関係職員と連携し実施する。		A					
	テクノボランティアなどものづくりの楽しさや魅力、必要性を感じさせるような取組を実施する。	産学官連携事業など専門教科の学習を通して職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力を育成する。		B	B		A		本校はテクノボランティアを推進しているが、1年生へのアンケート結果からは認知度が低い状態がある。次年度は、内容を充実させることで、生徒たちがボランティア活動に対して興味関心を持ち自ら活動することをおして、地域貢献の大切さを身に付けていきたい。
		テクノボランティアを充実させ、地域との連携を深めるための施設設備の充実を図る。	テクノボランティアについて <1年生に対してのテクノボランティアの認知度> 知っている:11% 知らない:89%	B					
		ものづくり教室などを実施することで、地域の子供たちや参加した生徒たちがものづくりの楽しさや大切さを実感し、100%満足するような内容となるよう計画する。		A					
地域や中学校へ工業高校の魅力を積極的に発信することで好感を持てるようPRを行う。	出前授業や地域の活動等に積極的に参加し、最新情報を発信することで、学校のPRに繋げていく。	※昨年度より知っているの割合が増 (環境デザイン科、EGクラブ、自動車研究部の活動を知っている)	A	A	A	ジュニアマイスターの申請について年々減少傾向にある。ジュニアマイスター顕彰の一つの動機に資格取得やものづくり大会に意欲的に取り組む姿勢を養うことも必要である。次年度は多くの生徒が前向きに取り組むことができるよう働きかけたい。また、工業高校教員研修会においては、県内の多くの工業高校の先生方に参加していただくとともに、会場である福岡工業大学のご協力もあり問題なく実施でき盛況に終わったことは大変良かった。			
	テクノボランティアの取組について地域や中学校に積極的に伝える。		A						
	SKBパネル製作など広報と連携し、本年度も学校の宣伝効果が上がるような興味・関心を持たれるようPR活動を行う。		A						
研修・図書課	本校及び生徒の課題解決や職員のニーズに即した研修の企画運営を行う。	各分掌における課題解決に寄与し、職務の遂行に役立つ校内研修を行う。	生徒指導に直結する研修を行うことで、職員の今後の指導力向上につながった。	A	A	A	6月の第1回職員研修では、保健課と連携して、「合理的配慮」についての研修を行い、今後の生徒理解・生徒指導に寄与する研修を行うことができた。来年度も本校の課題解決に向けての効果的な研修を行う。	A	これからの学校職員に必要な知識や技術・技能を見据えた研修になっている。次年度も生徒のために職員研修の充実を図っていただきたい。また、文化祭を通して、図書館の魅力を伝えることができていたことで、活用を促していただきたい。
		職員の実態を把握し、生徒理解に役立つ研修を行う。		A					
		職員の要望に応え、職員が積極的に参加できる研修を企画する。		B					
	職員員の資質や力量を向上し、授業改善のための研修を行う。	1学期(6月)に授業参観月間、2学期(11月)に研究授業月間を設定する。	生徒の学習指導の参考になる研修を行うことによって、授業力向上に寄与した。また、生成AIの活用についても、今後の校内での活用に向けて、職員の意識を向上させることができた。	B	B		A		11月の第2回職員研修では、進路指導課と連携して、「基礎力測定診断分析」を行い、さらに生成AIの活用についての研修を行った。来年度も教職員のニーズに合わせて、時宜に合った研修を企画運営していく。
		ICT研修や基礎力診断テストに基づく授業改善に資する研修を行う。		A					
		キャリアアップ講座等、外部研修の受講輪推を推進する。		B					
図書館の環境整備を行い、生徒の読書活動を支援する。	生徒のニーズに即した選書を行い、貸出数を増やす。	<学校の図書館> よく利用している R6:5%→R7:9% まったく利用していない R6:56%→R7:50%	A	A	A	図書委員会活動の活性化として、本年度は、文化祭で図書委員会独自の企画を催し、図書館の魅力や図書知識についての理解を深めることができた。今後も委員会活動をさらに活性化させ、図書館の利活用を一層促進させていく。			
	図書委員会の活動を活性化させ、生徒の読書活動をさらに活発にする。		A						
	「朝の読書」を通して、読書の習慣化と読解力の向上を図る。		A						
生徒会指導課	自治的活動の活性化を図り、充実した学校行事を実施する。	生徒会役員が、主体的な行事運営を行うことで生徒会活動の活性化を図る。	<体育祭の充実感・達成感> 10段階中8～10の生徒:66.2%	A	A	A	体育祭は3年連続、久留米アリーナで開催した。生徒会および体育委員の生徒とともに会場づくりから片付けまで、生徒一人一人が役割を自覚し、成功へと協力する姿が見られた。高い充実感・達成感が得られていると感じている。次年度は、創立120周年の記念となる体育祭として、さらなる満足度を上げていきたい。	A	体育祭や文化祭は、生徒会を中心に主体的な運営がされていた。学校行事は生徒自身でつくり上げていく意識を持たせていただきたい。また、文化部の満足度が低いようなので、文化部が活躍できる場の設定をしていただきたい。
		科代表、各種委員会が主体的な行事運営を行うことで、生徒会活動の活性化を図る。		A					
		生徒一人一人が生徒会の一員であることを自覚させ、それぞれの立場で役割を果たす態度を養う。		A					
	魅力ある学校行事を実施し、学校PRに繋げる。	生徒が身に付けた専門的な技術を、地域社会に広く知ってもらえるよう学校行事を運営する。	<文化祭の充実感・達成感> 10段階中8～10の生徒:65.5%	A	A		A		文化祭は、4年ぶりの食品バザー再開および各科での物品販売が行われた。校外から一般の方々へのおもてなしを行うよい機会になった。各クラス等の集団でより良い物をつくるために協力する姿があり充実感達成感につながっていると感じている。次年度は、来場者数をさらに向上させ、地域の注目度を上げていきたい。
		学校行事等の準備において、話し合う活動を活発に行い、全校生徒の主体性を向上させる。		A					
		広報課と連携し、生徒会活動を計画的に地域社会に発信し、理解を得る。		A					
部活動の充実。	部活動に対する生徒の意識調査を実施し、現状把握を行う。	<運動部モチベーション> 10段階中6～10の生徒:73% <文化部モチベーション> 10段階中6～10の生徒:37%	B	B	A	部活動に関するアンケートを実施した結果、運動部の満足度は73%と高いが、文化部の満足度が37%と低い結果になっている。活動内容や時間が定まっていないなどの意見が数多く出ている。また、学校全体の4割が部活動に所属しておらず、そのうちの3割が退部している。今後、活発な部活動運営を行うために、アンケート結果を、次年度の部活動内容や編成に反映させていきたい。			
	部活動に対する職員の意識調査を実施し、現状把握を行う。		B						
	働き方改革に取り組みながら、生徒の充実感を得ることができる運営を目指す。		B						
保健課	全職員と連携した保健業務を行い、生徒の心身の健康維持を図る。	保健室を利用する生徒へ適切に対応し、生徒各人の心身の問題点を早期把握するとともに、担任や学年等との連携を行う。	セルフチェックで自分のことを理解しようとする生徒が増加傾向にあることが分かった。 また、自己評価を適切に行おうとする生徒も出てきている。	A	A	A	生徒一人一人に寄り添った指導体制の構築が各先生方の協力で形となり、適切に近い形で先生方の連携が取れていた。また、保健室に来訪する生徒にも養護教諭を中心に、担任・学年と情報を共有しながら対応ができた。また、生徒自身も自己管理とともに自己実現ができるよう担任を中心として、生徒一人一人に即した対応ができた。今後も、生徒の課題に対して職員や校外の機関と連携しながら取り組むために、継続して調査や研修などの情報提供を行う必要がある。	A	様々な課題を抱える生徒がいる中、個に応じた指導をしていた。次年度も引き続き一人一人を大切にしている気持ちをもって生徒の成長を促していただきたい。また、校内美化に対して意識を高く持つ動機付けを行っていただきたい。
		生徒の自己を振り返る機会を設けて、セルフチェックを行い、自己理解の深さを把握するとともに自慢の教育活動に役立てる。		A					
		教育相談委員会やSC・SSW等の相談機関と連携を深め、状況把握や助言を受けて早期対応を行う。		A					
	日常の清掃活動を通して、美化意識の向上を図る。	日々の清掃状況を把握し、職員による支援や指導を通して生徒自ら校内美化に努める姿勢を涵養する。	美化コンクールを通して、掃除への意識が向上した生徒が7月よりも10月のほうが増加している。また、掃除への取組も意欲的に取り組んでいる生徒が目立つ。	A	A		A		美化コンクールは回数を追うごとに掃除への意識が高まり、取り組みがよりよくなっていることが分かる。一方、「掃除場所の広さに対して人数が少ない多い」、「廊下の汚れが落ちにくい」などの課題の生徒から挙げられた。各クラスへ還元して、掃除場所の応じた人数配置を依頼したり、道具の補充を行ったりする必要がある。
		美化コンクールを実施し、清掃活動の徹底と美化意識の向上を図るとともに、生徒に校内美化の重要性を理解させ、能動的に清掃活動に取り組む姿勢を形成させる。		A					
		掃除道具の調査や掲示物作成、委員会による呼びかけを通して過ごしやすい環境を整える。		B					

環境デザイン科	学科の特色を活かしたものづくりを行い、地域と連携し学校の活性化に繋げる。	地域と連携したものづくりを実践し、社会貢献に主体的に取り組む態度を育成する。	<学校生活(満足度)アンケート> 「分かる授業や学習意欲が持てる授業をしていると思いますか」 そう思う・ややそう思う 保護者: 92.7%、3年:94.5%、2年生:84.8%、1年:88%	A	B	3年生が「実習」で製作した木馬を地域の保育所に寄贈することができた。自ら製作したものを実際に使用してもらう場面を設けることで生徒のものづくりに対しての達成感を感じる場を設定できた。このような場を設けたり、生徒の意見などを反映させながら今以上に学習に対する意欲が高くなるような工夫を行ってほしい。	B	本年度、3年生の「実習」で製作した作品を地域の保育所に寄贈することができた。そのことについて、寄贈先から非常に喜んでいただき好評であった。次年度も地域に貢献できる学科として、工業人の育成を図ってほしい。	
		伝統を守りつつ、生徒の意見を反映させながら、実習内容の検討を行う。		B					
		中学校訪問やSNSを有効に活用し、地域全体に環境デザイン科の特色をPRする。		B					
	社会で即戦力となる人材の育成をする。	日常の振舞いに礼節や正しいマナーを身に付け、時間と規則を遵守できるように指導を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「規則を守り、規律正しく生活していると思いますか」 そう思う・ややそう思う 保護者:92.8% 「資格合格に向け、効果的な指導を実施していると思いますか」 そう思う・ややそう思う 保護者:95.7%	A	B				校則を厳しと感じながらも規律正しい生活できている。進路意識の高まりで自己管理ができていると考えられる。しかし、中にはできていない生徒もいるため、次年度は意欲付けをしつかりと行いたい。資格については放課後等を活用し効果的な指導を行うことができたので継続していきたい。安全教育は継続して指導を行い怪我“0”に努めていきたい。
		生徒の主体的な資格試験に対する取組を促し、全資格試験の合格率向上に繋げる。		B					
		日常や作業に潜むリスクを常に意識し、生徒自ら安全対策を講じることができるような指導を行う。		B					
3年間を見通した進路意識を持たせ、より良い進路実現を果たせるようにする。	進路指導部と連携し進路先の研究を深め、適正率の高い第1希望の決定とその合格率を高める。	<学校生活(満足度)アンケート> 「就職・進学に向けた手厚い指導が行われていると思いますか。」 「基礎的な学力や技術が身に付くか」 保護者:98.6%、生徒:98.9%、「決めた進路に満足していますか」 「そう思う・ややそう思う 保護者:95.6% 生徒:95.6%	A	B	学科のみの指導ではなく進路指導部と連携していくことで、生徒の適性に合った第一希望の受験及び合格に繋げることができた。今後、単発的に進路指導を行うのではなく、入学後より生徒自ら自己理解を深めコース選択ができるようにサポートを行い卒業後の進路選択に繋げ満足度のいく進路決定ができるように努めていきたい。				
	インターンシップや工場見学などを通して、適正業種を考え、適正率の高い進路選択に繋げる。		B						
	工業技術基礎や現場見学を通じて、自己の特性理解を深め、コース選択に繋げる。		B						
機械科	社会人としての基本マナーと社会常識を習得させる。また、キャリア教育の充実を行い職業観・勤労観を養い、実社会で生きる力、実践力を育成する。	あいさつ5S運動に積極的に取り組み、清々しいあいさつが出来る様に指導を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「校則を守り、規則正しい生活を送っているか」 保護者:92.8%、生徒:90.1% 「挨拶ができていると思うか」 保護者:91.3%、生徒:93.4%	B	B	基本的な生活習慣や礼儀作法等については、重要であるため社会人になることを意識させながら責任ある行動ができるよう、日々の授業や実習等とおしてさらに指導していきたい。また、自己肯定感が低い生徒が多数見られる。成果だけでなく過程も重視することで達成感を感じさせ自己肯定感を高めさせたい。	B	危険な機械を取り扱う学科でもあるが、「実習」では、作業中に怪我人が出ることはなかったので評価する。次年度は、工業教育の一環である資格取得、授業、進路の実現の3つを関連付けた教育活動を願いたい。	
		時間の厳守、返事の徹底を図り、社会人として必要な礼儀の指導を行う。		B					
		思いやりの心や感動する心を通して自己肯定感を高め、社会貢献する意識を育てる。		B					
	ものづくり教育や進路決定を見越し専門知識、資格取得等の充実を努め、実践的技術者としての意識と資質を育む。	基礎・基本を重視し、また、座学と実習の連携を強化することで専門性を高める。さらに、安全教育を徹底し怪我や事故を一人も出さない取組を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「基礎的な学力や技術が身に付くか」 保護者:100%、生徒:98.7% 「技術や技能、資格が取得できる」 保護者:98.6%、生徒:98.9%	A	A	実習では、作業中の怪我等がなかったことは非常に良かった。次年度以降においても、徹底した安全教育を実施し、実習のあらゆる場面で安全教育に取り組む。また、学力の向上に向けてさらに座学と実習の連携を密にし、意欲的、主体的態度で臨むことが出来るよう、課題や進度なども工夫していきたい。			
		専門の学習や資格取得等の指導において、自らの課題等を見出し、家庭学習を含めた学習習慣を身に付けさせると共に、自ら学ぶ姿勢を育成する。		A					
		進路情報を職員で共有し、個に応じた指導を行うことで、全員の進路実現を目指す。		A					
材料技術科	基本的な生活習慣の確立を図る。	学科全ての活動の中で、服装・礼儀・挨拶など6Sの指導を徹底し、社会性を身に付けた生徒の育成を行う。	<学校生活(満足度)アンケート> 「校則を守り、社会人に向けての規律正しく生活している」 保護者:90.5%、生徒:81.8%、「社会に出て役立つ技術や技能、資格が取得できるか」 保護者:96.9%、生徒:97.2%	B	A	服装や礼儀、挨拶、5S活動の徹底は、工業人として活躍する社会人としては必要不可欠な要素だと考えている。工業人育成の観点からも、この取組は、次年度も継続していきたいと考えている。	A	基本的な生活習慣の確立は工業人のみでなく、社会人としても必要不可欠なものであるため、次年度も引き続き指導を願いたい。また、授業改善や資格取得も順調にできているようなので、継続していただきたい。	
		日頃から生徒状況を共有し、学科全体で生徒を指導する体制をとる。		A					
		挨拶・規律・確認の大切さを実感させるために実習においては、機器類の安全な操作方法や工具等の整理整頓の徹底を図るとともに安全作業での6Sをよく理解させる。		A					
	学力向上に努め、資格取得の推進及び合格率の向上を目標とし、進路実現に繋げる。	授業改善に取り組みとともに、生徒個々の力に合った指導を行い、放課後や考査前学習会等を活用し教科指導の充実を図る。	<学校生活(満足度)アンケート> 「専門科目についての基礎的な学力や技能の定着」 保護者:98.9%、生徒:95.3% 「資格試験に向けた、効果的な指導」 保護者:96.9%、生徒:94%	B	A	生徒の学習力向上を図るためには、先生方の授業改善が必要不可欠である。そのためにも生徒の個々の状況把握は大切である。学科全体で生徒の学習面や生徒個人の特性等の情報共有を行い、生徒のさらなる基礎学力向上に努めていきたい。また、次年度は希望進路の実現に向けならびにエンジニアマイスター受賞を目標に、人間的にも成長できる環境づくりを行ってほしいと考えている。今年度、技能士金属熱処理3級は12名中10名の合格で84%だった。次年度も継続したい。			
		インターンシップや工場見学等で就業心をよく理解させ、学校生活の中に取り組み、社会人として行動できる人材を育成する。		A					
		全員が資格取得できる環境を作り、確りとした指導体制を学科全体で取り組み、高度熟練者やマイスター派遣を利用しながら知識・理解を深め、合格率80%を目指す。		A					
電気科	基本的な生活習慣の確立を図る。	産業現場が求める資質能力を習得させ、皆勤・精勤80%を目指す。	<学校生活(満足度)アンケート> 「浮羽工業高校の生徒は校則を守り、規律正しく生活していると思いますか」 保護者:93%、生徒:82.5% 「あいさつがよくできていると思いますか」 保護者:91%、生徒:92%	B	B	基本的な生活習慣は学習意欲や集団生活への適応に大きく影響する基盤である。今年度は日常的な声掛けを行うことで挨拶や時間を意識した行動など一定の改善が見られた。一方で個人差がみられ、指導の成果にばらつきが生じた。次年度は、家庭と連携した継続的な啓蒙を行い、生活習慣を身に着ける指導から自ら振り返り、改善する意識を育てる指導を行う。	B	電気科として重要視する資格取得に向け、受験者数は増加したが、合格率が予想より伸びなかったため、受験者全員が合格できるような取組の工夫をお願いしたい。また、挨拶の励行等はできていたので、良い伝統を引き継いでいただきたい。	
		授業や実習の時間を通して時間の厳守、身だしなみ、挨拶等の徹底した指導を行う。		B					
		各授業や資格指導を通して、学ぶことの大切さを理解させ、家庭学習の習慣化を図る。		A					
	学力向上、資格取得の推進と合格率の向上を図る。	授業改善に取り組み、「わかる授業」、「個別最適化された授業」を目指す。	<学校生活(満足度)アンケート> 「浮羽工業高校では分かる授業や学習意欲が持てる授業をしていると思いますか」 保護者:93%、生徒:90% 「浮羽工業高校では習熟度別授業、分割授業によって適切な指導を受けていると思いますか」 保護者:87%、生徒:84.5%	B	A	今年度は授業内容の工夫や補習・個別指導の実施、資格取得を意識した指導を行った結果、学習意欲の向上や資格取得への挑戦者数の増加がみられた。一方、学習内容の理解が十分でない生徒もあり、合格率の課題が残った資格もある。次年度は、基礎基本の定着を重視した授業改善と段階的な学習工場指導の充実、生徒の理解度に応じた個別指導・補習体制の強化を行っていく。			
		資格取得を生徒が主体的に取り組むように促し、各試験の指導を行い合格率の向上を目指す。		A					
		資格取得の指導と授業の関連性を密にし、放課後等も使い知識を深めることで合格率の向上を目指す。		A					
進路意識の高揚を図り、社会人として必要な資質能力を身に付けさせる。	インターンシップ等、外部との連携を密にし、社会から求められる人材を育成する。	<学校生活(満足度)アンケート> 「浮羽工業高校では就職・進学に向けた手厚い指導が行われていると思いますか」 保護者:99%、生徒:97.5%、「浮羽工業高校では習熟度別授業、分割授業によって適切な指導を受けていると思いますか」 保護者:87%、生徒:84.5%	B	B	今年度は、進路指導を通して自己理解や職業について深める機会を設けたことで進路に対する関心の高まりがみられた。また、学校生活や行事を通じた、挨拶や時間、責任のある行動など社会性の基盤となる態度の育成ができた。一方で、生徒によっては進路に対する意識の差が大きく、将来像を具体的に描けていない生徒もいた。次年度は、早期から段階的に進路意識を高める取組を行い、学校生活全体を通して主体性・責任感・協働性などの資質能力を育成する指導を行っていく。				
	全生徒との個人面談を行い、論述的表現能力の育成を図る。		B						
	進路に関する知識や情報を収集し、個に応じた指導を行う。		A						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と自ら学ぶ力の育成:ICTを活用し、個に応じた指導を行うことをとおして、「分かる授業」に努める。また、そのことを通じ、「自己肯定感」を高め、主体的に学習する生徒の育成を図る。 ・キャリア教育の充実:生徒の進路実現に向けて、1年次から計画的なガイダンスや地域や企業との連携を効果的に実施し、3年次には主体的に進路実現を叶えることができる生徒の育成を図る。 ・工業教育の充実:学科・得意技コースを再考し、中学校に理解していただけるような教育活動を展開していく。また、テクノボランティア等を通じ、地域から愛される学校を目指す。 ・広報活動の充実:高校説明会や出前授業の参加、また、学校ホームページやInstagram、広報誌を使い、魅力ある学校・学科・コースについて知っていただき、生徒募集へ繋げる。 ・新たな教育活動の実施:従来から本校の特徴となっている教育活動以外に加え、一つでも多くの目玉となる教育活動の試みを模索していく。 ・DXハイスクールの推進:DXをとおして、新しい時代に対応できる工業人の育成を図る。
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A:適切である
	B:概ね適切である
	C:やや適切でない
	D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
特になし	